

磐田市アーチェリー協会

加盟人数 32名
代表者 寺田 幹根
創立年 昭和62年

【組織】

1. 協会の概要

磐田市アーチェリー協会は、昭和62年4月の設立と同時に磐田市体育協会、静岡県アーチェリー協会に加盟し、昨年の平成29年に30周年を迎えるに至った。会員数は、設立時は7名の会員でスタートしたが、初心者教室の開催、経験者の加入等により現在は32名になっている。

練習日は、毎週日曜日の午前を協会の基本練習日とし、会員のレベルを考慮し短距離の30mを中心に練習しており、日曜以外は個人の自由練習で、4月に完成したかぶと塚の新アーチェリー場で行っている。

2. 協会の紹介

現在の会員32名中アーチェリー経験者は10名程度で、多くの会員は協会が開催した初心者教室を経て会員となっている。また、年代別では60歳以上の会員が15名と約半数を占め年配者が多くなっている。

そのため、かつては県大会や全国レベルの大会に参加した競技志向の会員もあったが、現在では健康や体力の維持・向上、余暇の楽しみ、あるいは会員相互の親睦が主な目的となっている会員がほとんどで、矢を射る時間よりもおしゃべりの時間の方が長い会員もみられる。



臨月でも楽しむ会員

3. 役員を紹介

協会の役員としては、会長以下、理事長、事務局、会計、監査、理事数名をおいており、任期は2年となっている。

平成30年度の役員は下記の通りである。

顧問	河島 直明
会長	寺田 幹根
理事長	半場 久博
事務局	山中 正三
会計	田中 裕之
監査	岡本 公子
理事（競技運営）	横井 利博
理事（射場整備）	白井 康雄
理事（普及指導）	理事長兼務

【現在の活動状況】

1. 競技の魅力

アーチェリーは矢をつがえ弓を引き、的を狙い弦を放す。そして矢の当たったところの点数で勝敗が決まる。至ってシンプルな競技であり、初めての人にもルールが解り易い。その反面、知的作業が含まれている。例えば風がどのくらい矢飛びに影響するか等を瞬時に判断しなければならない。

また、アーチェリーは自分の体格や力量に応じた強さの弓を引くことができることから、子供から年輩の方、障害を持った方も同じ条件で競技できる数少ないスポーツでもある。選手生命が長く、生涯スポーツとしても長く楽しむことができ、レクリエーションとして手軽にできるが、トップアーチャーになるには高度な技術と精神力が必要であり、入口は広く奥が深いスポーツである。

2.活動状況

(1) 新アーチェリー場の完成

協会設立当初は東大久保運動公園の一面をゲートボールと共用で利用していた。その後、平成4年に城山球場北側の旧弓道場を短距離用の練習場として借用することが出来たが、平成19年に建物の老朽化により取り壊しとなった。そのため、東大久保運動公園に恒久的な射場の設置を磐田市に働きかけた結果、50mまで可能な市営アーチェリー練習場を整備していただいた。

ところが、平成27年4月に隣接したテニスコートの拡張整備に伴い閉鎖となったことから、向笠地区にある向陽調整池グラウンドを仮射場として活動を余儀なくされたが、平成30年4月にかぶと塚公園に70mまで射ることが出来る本格的なアーチェリー場が完成し利用している。

(2) 初心者教室会の開催

協会の設立当初よりアーチェリーの魅力を伝え、普及と会員拡大を目的に初心者教室を春・秋の年2回開催してきた。

ところが、平成27年に仮射場に移動し準備等に手間がかかるようになったことから止むを得ず秋の1回開催としたが、今年新射場が完成したので従来通り年2回の開催でアーチェリーの魅力を伝えていく計画である。



新アーチェリー場での初心者教室

(3) 月例会の開催

毎月会員のレベルアップと親睦を目的に月例会を開催している。当初は50・30mの72射であったが、平成20年頃より初心者でも参加できるよう30mを72射、冬期はインドアの競技に合わせて18mを72射で行っている。

今後は、新射場が完成したことからオリンピックを含めた一般的な種目の70mでも行っていきたい。

(4) 県月例会の開催

静岡県アーチェリー協会は各種の大会を主催し、各支部が主管となり準備から開催まで担当しており、磐田市は例年6月例会を担当している。

開催場所は、かつては各主管支部内（磐田は東大久保運動公園）で開催していたが、平成17年より主にエコパのある小笠山運動公園で開催している。

3.優秀選手の紹介

将来有望な選手として、現在中学3年生の小林万里子、渥美統之両選手が挙げられる。

小林選手は、平成27年の小学6年で出場した全日本小中学生アーチェリー大会の小学生女子の部で優勝し、翌年全日本アーチェリー連盟のナショナル育成チームに選出された。

渥美選手は、今年開催された同大会の中学生男子の部において、決勝では9位であったが、予選の成績により同育成チームに選出された。

両名とも来年度より競技人口が大幅に増加する高校生になるが、今後の活躍を期待したい。

4.今後の目標や展望

現在協会が抱えている問題は会員数の伸び悩みと高齢化が進んでいることである。会員数はここ数年30名程度で推移しており年代別では60歳代が約半数を占めている。

会員勧誘のため春・秋の初心者教室を継続して開催するのはもちろんのこと、新射場がかぶと塚公園内に出来たことから、市民が大勢参加する体育の日のスポレク健康フェスティバル等に参加し、アーチェリーの楽しさ、魅力をPRして会員確保に努力していきたい。